

# 令和3年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園  
認定こども園 名張よさみ幼稚園

当園では令和3年度の幼保連携認定こども園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、幼保連携こども園として更なる教育保育の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 教育目標

### 教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

### 教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ・「おはようございます」という  | 明るい心  |
| ・「はい」という         | 素直な心  |
| ・「すみません」という      | 反省の心  |
| ・「わたしがします」という    | 積極的な心 |
| ・「ありがとうございます」という | 感謝の心  |
| ・「おかげさまで」という     | 謙虚な心  |

## II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。

幼保連携型認定こども園として、0歳から就学前までの発達や学びの連続性を考慮した教育・保育を展開し、自ら考え行動し表現できる子どもの育成に努める。そのために、子どもの主体的な活動や多様な体験を保障をし、友だちや保育者とのやりとりなどで自らの考えを広げ、気づきや工夫する体験が次の体験と結びついていくような環境を整える。また、自園給食を生かした食育を保育に積極的に取り入れ、幼児期における食の重要性を考慮した上で、教育内容を深めていくように努める。また、新型コロナウイルス感染予防を意識した新しい園生活スタイル、保育内容の工夫に努める。

### Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標 園の教育方針や目標、園長の 思い等を共有することが できているか。 また、その為にどのような 取り組みがなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育保育方針や目標に基づいて、教育保育の實踐ができるよう、職員会議や園内研修を重ねている。（毎日の朝礼、終礼、職員会議、リーダー会議、学年会議ど）その中で、職員ひとりひとりが教育・保育の在り方を振り返り、課題を見つけ、修正する意識を高めている。</li> <li>・「子ども理解」という観点から、継続的に子どもの遊びを観察し、職員研修を行い、学びと共通理解の機会を設けている。</li> <li>・保育者の環境構成の工夫、子ども一人ひとりへの支援の仕方等、職員間の連携を重要視している。</li> <li>・各行事ごとに、園の方針と照らし合わせながら、その行事を通して何を育てたいのか、それぞれの職員の園児に対する思いを中心に会議を持つようにしている。</li> </ul>
2	指導計画の 作成と評価 保育カリキュラムの評価・ 反省を行い、次の保育と 計画に活かせるように取り 組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園教育保育要領、並びに園の教育保育過程を基盤とし、乳幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、主体的な学びの実現を念頭に、カリキュラムを作成している。</li> <li>・日案、週案、月案は、学年ごとに会議を行い作成し、教職員間で共通理解を図り、学年リーダーを主軸に日々の反省や振り返りの時間をとっている。又、課題については、職員間で話し合いを日常的に設け解決に導いている。</li> <li>・日誌に、保育を振り返り、今後の課題を記録し、明日への保育に繋がるよう取り組んでいる。</li> <li>・週案作成時には、保育内容や自由保育と設定保育のバランスを考え活動に偏りが無いよう工夫している。</li> <li>・就学前の年長児には、小学校を意識したカリキュラム作成をしている。</li> </ul>
3	教育環境の構成 異年齢の幼児が自然に交流 できるような環境構成がで きているか。また、その為 にどのような取り組みを行 っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園という環境を生かし、幼児・乳児の交流を存分に行いたかったが、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐために交流がなかなかできなかった。</li> <li>・「おひさまデー」では、クラス関係なく子どもと職員が戸外で伸び伸びと遊べる時間を作った。1か月に1度の計画ではあったが、感染が拡大している時期には実行せず、学年毎に外遊びの充実を図るように努めた。</li> <li>・異年齢交流（スマイルデー）は、年少・年中・年長の異年齢で過ごす時間を大切にしながら、感染が拡大している時期には、活動内容や環境構成に十分配慮し行うようにした。</li> </ul>

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
4	指導と関わり 個々の興味や関心、能力に応じて活動することにより成長に応じた関わりがなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育遊びなど身体全体を使った動的な遊びと、造形・絵画・茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。</li> <li>・英語教材を利用しネイティブな発音に触れる機会を設ける事で、子ども達の興味の幅を広げている。</li> <li>・子どもの自由遊びでの興味・関心を取り上げ、それに関連する遊びを取り入れることを大切にしている。</li> <li>・個々の能力に応じ、無理なく、一人ひとりが主体的に活動できるように個々を理解した上で関わりを深めている。</li> <li>・年長児に関しては、小学校への円滑な接続を意識し計画をたて、子ども達のやる気を引き出せるようなカリキュラムを</li> </ul>
5	研修・研究への取り組み 研修・研究への取り組みが充分に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントの観点から、教育・保育への振り返りの着眼点により、職員がどのように向上していくかを、園長・主任が把握しながら一人ひとりの職員が課題を見出せるように、指導している。</li> <li>・公開保育を年間を通じて実施している。保育者の振り返りだけに留まらず、子ども理解を深められるような研修にしている。</li> <li>・子どもの様子に着目し、子どもの遊びや行動の理解を読み取り一人ひとりへの支援についても話し合っている。</li> <li>・今年度は、支援をテーマに研究発表を行い、今以上に研究心が職員の中で深まり、記録の大切さ、考える大切さが身についた。</li> </ul>
6	安全管理体制の整備 安全管理の為の体制は十分に整っているか。 また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来園者への園内立入証の携帯を義務付けている。</li> <li>・避難訓練を年12回、防犯研修を実施し、災害や不審者侵入時に備えている。</li> <li>・登園降園時間以外の正門の施錠、登園・降園の際、玄関に職員を配置し、保護者と園児の受け渡しを安全に行えるように配慮している。又、正門付近の防犯カメラの設置、警備会社との連携を図っている。</li> <li>・地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者にメール配信ができるシステムを導入している。</li> <li>・食物アレルギーについては、担当職員と保護者との面談を徹底しアレルギーの子どもにも安心して給食が提供できるように心掛けている。</li> <li>・保育室や遊具の点検は毎日行い、安全チェック表に記入し、不備があれば対応するようにしている。</li> <li>・災害時の水・食料の備蓄を増やし、発電機なども保管している。</li> <li>・バス運行する運転手や添乗員にも研修を行い子どもへの理解や安全面での心得を共有している。</li> <li>・職員の救急救命講習を受講したり、エピペンの使い方研修を行っている。</li> </ul>

	評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内全体や、玄関、テラス、玩具の消毒を行っている。</li> <li>・登園、降園時の視診やコロナ対策として園児の検温を1日3回実施している。又、手洗い、消毒の徹底にも努力している。又、来園者全てに、玄関での非接触体温計での検温を行なっている。</li> <li>・保育室には、空気清浄機を設置し、園児の健康管理の一助としている。窓を開けたり換気扇を使用し換気の徹底行っている。</li> <li>・乳児の玩具やトイレや保育室の消毒を毎日行っている。</li> <li>・嘔吐の処理のマニュアルの確認と徹底を行い共通理解している。嘔吐した場合に、即座に処置できるよう、嘔吐処理グッズを、各保育室に設置している。</li> <li>・給食など食品を扱う時は、手袋・マスク・エプロンを着用し、衛生面に注意を払っている。</li> </ul>
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができてきているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えや、稲刈りの仕方を地域の方から学び、体験させてもらう事でお米の生長に興味をもち、収穫した米がお餅になる事を知る事で、食育に繋がる体験をしている。。</li> <li>・各クラスの花壇や畑に花や野菜を植え、日々お世話をしたり観察することで生長課程を知る事が出来る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大を防止する為、小学校との関わりがなかなか持てなかった。又、ここ数年は老人ホームへの慰問も出来ていない。</li> </ul>

#### IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と 評価	<p>近年の乳幼児を取り巻く社会情勢や、環境が変化する中で、子ども達の経験が豊かになるように、園の教育方針を基盤に計画をしていく必要がある。常に子どもの姿を念頭に置き、指導計画を作成していくことが大切であると考えている。職員間で共通理解を深めるとともに、子どもの「自ら考える力」を養い、「主体性」を育ていけるような保育内容を検討していくことが必要である。</p> <p>特別な支援を必要とする園児に対し個別に指導計画を立て、その子に合った保育の充実を図るようにしていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に、新しい生活様式を踏まえた上で、より子ども達が過ごしやすい環境や保育内容であるように、職員間で話し合いながら進めていきたい。</p>
2	研修・研究への 取り組み	<p>公開保育・園内研修の在り方を見直し、職員が自ら学び、子ども理解に繋がるように研修の在り方を定着させる事が必要である。園内外の研修に積極的に参加し、学んだことを会議などで発表し、職員の質の向上に役立てる事が大切であると考えている。又、計画、実施、評価、改善のサイクルを実行する事を忘れないようにしたい。</p>
3	安全管理体制の 整備	<p>毎月の避難訓練と職員の消火訓練、普通救命講習は継続していく。災害時の保護者への園児の引き渡しについても、保護者への周知の徹底と災害時の職員の連携を整えていきたい。日頃の避難訓練に加え、大型地震などの避難場所、避難経路園児とを共に確認していく。園児や職員の非常時の備蓄についても見直していく。</p>
4	地域との連携	<p>園からの情報提供や保護者や地域の方との情報交換、園行事への参加の機会を増やし、園の教育・保育に対する理解を深めてもらえるよう発信していきたい。新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑みながら、地域の施設等への訪問や関わりも、工夫しながら実施していきたい。小学校との連携も取りにくくなっているので、少しでも交流の場が設けられるようにしていきたい。</p>

## V. 学校関係者の評価

上記の通り、適切に実施されていると判断できる。

この学校評価での反省を活かし、来年度さらに向上されることを期待します。

### 【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である